

もくじ 明治の足立を探る 1P  
江戸六阿弥陀巡拝路 三 4P

鹿浜での子どもの生活② 2P

# 足立史談

第557号

2014年7月15日

足立区教育委員会  
足立史談編集局  
足立区立郷土博物館内  
〒120-0001  
東京都足立区大谷田5-20-1  
TEL 03-3620-9393  
FAX 03-5697-6562

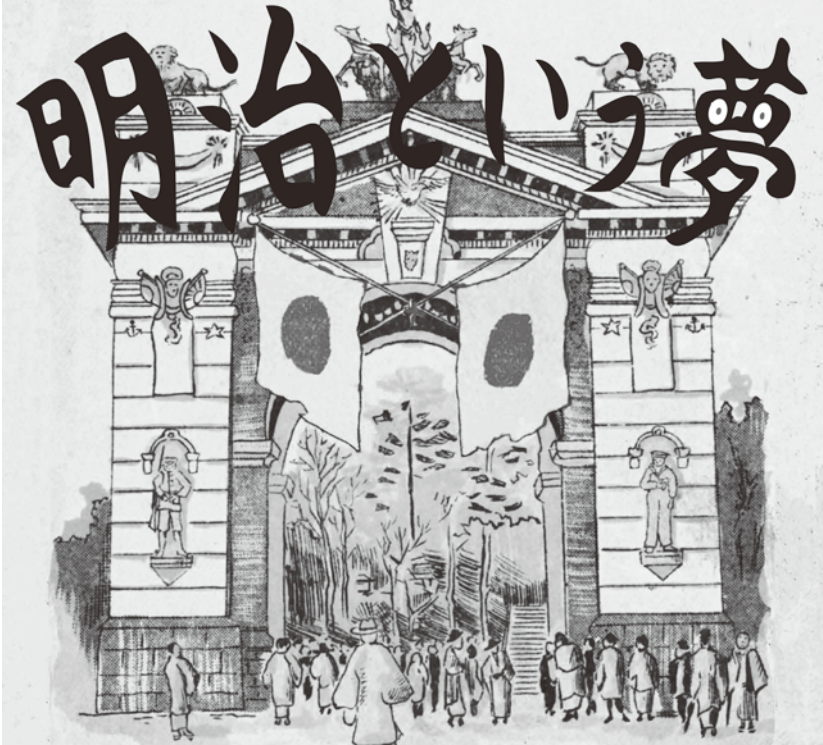
(25-308)

明治の足立を探る  
企画展開催中!

## 足立の人びとは、何を思い、何と戦ったのか

企画展 — 祈りと戦いの足立 —

会期：平成26年6月24日(火)～9月7日(日)



### 千住の旗隧道と凱旋門

いま郷土博物館では企画展「明治という夢」と題して明治時代の足立区をテーマとした展覧会を開催中です。上の挿絵に使用したのは、東京上野に設置された、日露戦争の凱旋門の絵葉書です。この凱旋門の展示ゲートが皆様をお待ちしています。

凱旋門は日露戦争の戦勝にわく、東京をはじめ各地に建設されました。足立でも近衛師団や第一師団の兵士たちが帰還してきた明治38(一九〇五)年10月ごろから歓迎ムードが高まります。

■国旗のトンネル 現千住仲町の旧道沿いに10月から一ヶ月間、千住河原町でも二ヶ月間、国旗の「旗隧道」(旗のトンネル)が作られました(読売新聞「明治38年10月23日号」)。

■紅白の凱旋門 加えて、11月20日には紅白幕を巻きつけた凱旋門が現千住仲町の旧道に出来ました。これは西新井大師に連合艦隊司令長官の東郷平八郎が来るとの話を聞いた掃部宿の人たちが設置したものでした。実際には東郷大将(当時)は来ませんでした。したが、せっかくだからと六〇日間、千住の旧道沿いに設けられていました(「東京日日新聞」明治38年11月22日号)。

当時、千住の旧道沿いには旗隧道が連なり、その中に紅白の凱旋門が

企画展関連事業のご案内1

### 展覧会シンポジウム 明治期足立の光と影

■日時＝7月27日(日) 午後2時～3時30分

■会場＝郷土博物館講堂 ■参加申込不要

明治時代の足立について、さまざまな角度からディスカッションをおこないます。

【登壇者】 あさくらゆう氏(歴史研究家)・三村昌司氏(東京未来大学講師)・多田文夫(当館学芸員)、【司会】 夏目琢史(当館専門員)

あるという祝賀ムードがただよう光景が広がっていました。

### 和歌と記録に込められた祈り

いっぽうで家族離別の悲しみや戦死者への哀悼、教育への影響の憂いなど、当時の資料からは戦勝を祝う思いと同時に、人々の様々な心象風景を読み解くことができます。

日露戦争ののち、戦捷百人一首が都新聞によって公募され足立から三首が選ばれました。いずれも戦地に赴く人の心を想う内容でした。このうち千住三丁目の和久義助の和歌を紹介します。

万歳にこゑきく毎に如何ならん  
黒髪切りし 人の心は



また戦争の社会への影響について「花畑尋常小学校沿革誌」という資料には、日露戦争が教育の発展には障害であったと率直に記述している事例もありました。

ここで紹介したように明治の足立の人々は、戦勝祝賀一色ではなく、様々な思いや憂いを記録に残しています。足立にはそうした細やかな人々の心象風景、祈りを見ることが出来ます。

**明治天皇行幸時の錦絵**

展覧会の新公開資料の中から一点を紙上でご紹介します。三代歌川重の新聞錦絵「報知新聞 奥羽御巡幸図会 千住駅御小休所」（明治9・一八七六年。右写真）です。

この頃、西南戦争や不平士族の反乱が続き、新体制を固めるため大久保利通らの建築で行われた事業でした。そのため明治天皇は十数年がかりで八八回にわたり全国を回りました。そのうち大規模な巡幸を六大巡幸といえます。千住は一回目の見送りの時（明治9年）一度と、五回目の巡幸（明治14・一八八一年）の送迎二度、都合三度にわたり送迎の場所として利用されました。

**■皇后陛下への菖蒲献上** 描かれていたのは皇后陛下（昭憲皇太后）への菖蒲献上です。一回目の東北巡幸で明治天皇とご一緒に千住にいらした明治9年6月2日の出来事です。菖蒲の献上理由ですが記録上特記はありませんが、土地の季節の花を献

**■明治天皇の巡幸**  
 シリーズ名の奥羽御巡幸とは明治天皇の東北巡幸のことです。明治国家の成り立ちに明治天皇は全国巡幸を行っていました。

上したと考えるのが妥当でしょう。両陛下にご覧頂き三株皇后陛下がお待ち帰りになりました。当時の記録では次のようにあります。

**資料「奥羽御巡幸明細日誌」掲載文**  
 お給仕として駅内にて身柄あるものの男子（十三歳）、女子（十八九歳）二十名宛、揃ひの木綿単物（十輪の中に桜の紋）を着して罷出て、庭中には有志の輩が菖蒲を植へて天覧に備へ、特に皇后宮の御意に入り三株御持ち帰りになり、菖蒲代金三円を被下たる由。

**■当時の様子と小休所の場所** 千住では昼前に旧問屋場前に消防人足がそろい、見送りの華族や三条美美（太政大臣）、岩倉具視（右大臣）、木戸孝允（内閣顧問）ら重臣たちも到着しています。大橋を渡った河原町では組手桶を出して万歳を唱え、正午

ごろ両陛下が馬車で御小休所に到着、料理は千住地元魚徳が用意しました。海軍兵、陸軍兵も到着して、大変な混雑でした。午後2時10分には皇后陛下、皇族、重臣たちが見送る中、天皇陛下が出發します。警視と巡査が埼玉県境までお見送りしました。その後、午後2時30分には皇后陛下が帰途につかれました。

小休所があったのは現千住三丁目75-76番です（旧道東側）。お近くの山崎商店さんと地元サンロード商店会さんが、旧道を挟み西側に案内板を設置しています。

この新聞錦絵の絵はがきを今企画展ご来場の皆様に無料でお配りしております。ぜひお越しください。

【参考文献】尾佐竹猛「千住に於ける明治三陛下の聖蹟」（『明治の聖蹟』第四卷第四号、昭和8（一九三三）年4月、明治天皇聖蹟保存会（郷土博物館）

縁故疎開ですこした北鹿浜町の想い出②  
**鹿浜での子どもの生活 その2**

小川 誠一郎

**■子どもの手伝い** 日々の生活の中で頼まれる二、三の手伝い仕事には、幼い子供にもそれなりにこなせ、実際に立てたと思えるものがいくつ

企画展関連事業のご案内2

**■連続講座** ( )内は講師

① 7/26 (土) **「明治の絵馬」**  
 (学芸員 荻原ちとせ)

② 8/16 (土) **「絵が伝えた明治」**  
 (専門員 小林 優)

※いずれも、午後2時から3時30分  
 会場は郷土博物館講堂。  
 ※参加申込不要。当日会場にお越しください。

難しい順に、風呂の準備、暗くなってきたら雨戸を閉めること、三時の茶菓子を野良まで届けることなどが挙げられる。

■風呂の水くみ 風呂場の木製湯船一杯に水を張るため、少し離れた井戸端の手動ポンプでバケツに水を汲んで運び風呂桶に空ける。その繰り返しを指折り数えて一五回ほど、これは骨が折れた。バケツになみなみ汲んで、重くなっても回数を減らすか、回数が増えてもバケツを軽くするか、どちらが楽かと悩んだり、一方、何杯汲めば一杯になるか予想したりして楽しんだ。手伝いが遊びに出かけたまま時間に戻らぬときは、八重ちゃんが島堀の用水を桶に汲みとり、天秤棒で担いでそのまま風呂へ入れたりました。

石鹸がないので、体は手拭いで丹念に擦って洗う。小さな風呂に一家全員が入り、上がり湯もないのだから、井戸水と用水のどちらを使ってもすぐに濁って、区別のつかぬドロドロ温泉になってしまふ。でも、気にするような人は誰もいなかった。

■風呂焚き とくに風呂釜焚きは、雑多な廃材や木端を按配して釜にくべ、火勢を落とさぬよう燃やし続ける工夫があるので面白かった。禁じられた子どもの火遊びが半ば公認されたようなもので、なによりも煌めく真っ赤な火炎が心を引きつけた。火

付けに在る燃えやすい屑紙や厚紙はおるか、マッチすらない時代。そしてなぜか良く燃える稲わらは、風呂焚きでは絶対使わせてくれなかった。かまどの残り火を付木の硫黄に移す近づきすぎると亜硫酸ガスでむせてやっかいだ。青白い小さな炎が消えぬよう手をかざし、風呂場まで大事にもつてくる。火付け用の貴重な枯れ草がいぶり出したら火吹き竹で勢いをつける。乾いた竹が火を吹き、音を立てて燃えさかるすごさ！火が入りやすいように積み上げた木端が言うことを聞くとは限らない。意地悪くくすぶり始める時もある。煙で目が沁み、喉はむせてもう我慢の限界と思つた瞬間、バンと音を立て爆発的に全体に燃え上がる時の爽快さ。闇の中で練り広げられる、めくるめく火炎の千変万化だ。

風呂焚きが終わりになる頃、さらに釜の残り火で熱くなりすぎぬよう、良くかき混ぜ、湯加減を見計らい止めるのが難しい。冬場、半分裸で母屋を飛び出したら、熱すぎて入れないよ！でも人を呼ばず、慣れた外の井戸との間を震えながら二、三度往復しぬるめた。でも熱めで止めておかないと、すぐにぬるまってしまう。冷えた体を熱いお湯にゆっくり沈ませて行く、体中の神経を総動員させるこの痛いような快感は、今になっても体が覚えており、その情景が

目に浮かぶ。

■雨戸を開ける 重い雨戸は、引き出す力加減と戸車との相性が合うと、銅板レールの上をゴーツと滑るように動いて気持ちが良い。でも八枚全部がそうである日はまれ。子供は引く力が弱い。体重を掛け押し出す場合も、心がこもらないと、雨戸は機嫌を損ねレール上でゆがみ出し、子供の手ではびくともしない。寒い中で泣きたくなる。残り一、二枚になると移動距離にゆとりがなくなりかえって難しい。何枚か元へ戻し慎重に自然な姿勢を整えやり直す、急がば回れ！その通りだ。

■野良へのお茶受け運び

「セイちゃん、今日はどこその野良に皆がいるから、このお茶請け届けてくれや！」

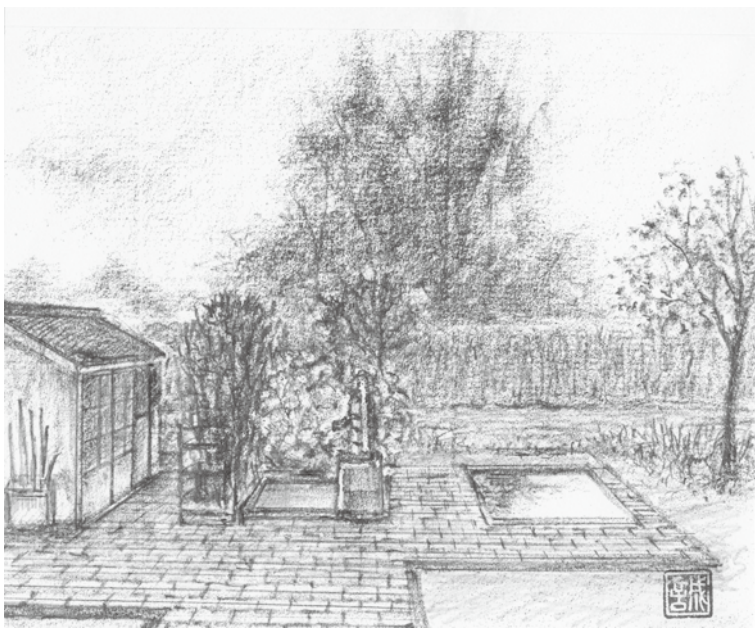
大きなやかんにお茶を入れ、木製桶に湯のみとサツマイ

モ、ジャガイモ、トウナスなどの茹でたのをきちんと詰めて出発。あそこだ！と内心合点した畑に皆がいて迎えてくれたら、しびれの来た両手も楽になるのだけど、畑が分からなくて迷い出したらさあ大変！苦楽を共に多くを学んだ。

夏が近づく頃、家に帰ってのお三時は楽しかった。井戸水で冷やしたマクワウリをいくつもいくつもむいて食べられる。鹿浜で沢山取れる唯一の甘い果物だ。

(文・画 慶応義塾大学名誉教授)

(つづく)



母屋の南側にある井戸 母屋側から見た様子。左が風呂、中央が手押しポンプの井戸、右はカマなどの洗い場。家の周りの主な通路はレンガ敷き詰められていた。祖母の2番目の兄が、斉藤レンガに養子に入っており、レンガの調達が可能だったのではと思われる。

江戸六阿弥陀巡拜路 三

本間 孝夫

「六阿弥陀路程略記」(前号の続き)〔西福寺〜無量寺〜与楽寺〜〕  
堂東北に向けて川に面す、それよりミ  
ちを西南に転じて、田のくろの小み



無量寺

ちを行、屈曲盤廻して南北方位不弁  
といへとも、さして向ふ処八西南二  
山しし連綿たるを見る、

西福寺(北区豊島二一四一)は  
石神井川に面しており、川を渡り梶  
原船方村に入る。北区内は六阿弥陀  
道が区の資料でも確定しており、堀  
船三丁目の福性寺門前に「六阿弥陀  
左一番目道」の地蔵がある。道はく  
ねくねと曲がって方位が判別し難い  
が、これから向かう無量寺(北区西  
ヶ原一三四一八)などは武蔵野台  
地上にある。荒川辺の低地より見る  
と丁度山が連なっているように見え  
ているので、方向は分り易い。

福性寺(北区堀船三一〇一六)  
からは「都電最中」で有名な梶原銀  
座を抜け、明治通りを渡り上中銀座  
を通るほぼ直線に近い道である。

行事しはしはく二して坂あり、のほ  
りはて、平塚明神の社の左側二出、  
鳥居を出て王子道の大通りを東より  
西のかたへ横きりて、寺の裏門より入  
又山径をくたりて無量寺の庫裏に出

西福寺より  
二十五丁  
西ヶ原三番目 無量寺

現在のJR上中里駅近くの坂を上  
ると平塚神社の横に出る。平塚神社  
は六阿弥陀伝説に深く関係している  
豊嶋氏の平塚城があった場所と言わ  
れており、神社の横から入り、鳥居  
を抜けると王子道(江戸時代は日光

御成道で、現在の本郷通り)を横切  
る。今でも渡り切った場所の無量寺  
裏門には道標が建ち、少し下ると六  
阿弥陀第三番目無量寺がある。本尊  
の阿弥陀如来は秘仏のため学術的な  
調査がなされていないが、江戸時代  
の六阿弥陀とのことである。

門前に「六阿弥陀すえ木のくわん  
おん江是より右江一丁目、補陀山昌  
林寺」の道標がある、昌林寺の本尊  
は行基が光明木の末の部分で観音菩  
薩を彫ったことに由来し、性翁寺と  
同じく六阿弥陀の番外寺院となつて  
いる。観音菩薩は平安時代後期の作  
であるが部分的に欠損等あり状態が  
良くない。

門を出て五・七丁行、路の東畔に西  
行庵あり ここを十  
条村と云 猶行事数丁二して  
無量寺より  
三十五丁  
田端村四番目 与楽寺

無量寺門前から出て東に向って日  
光御成道を横切り、ほぼ真直ぐ現在  
の聖学院の下から、山手線唯一の踏  
切を渡る。八幡坂で右折し、少し先  
の赤紙仁王通りに入り、しばらく行  
き西行庵(赤紙不動で有名な東覚寺  
隣の普門院にあった)を左に見て直  
進し、田端駅からの切通を横切ると  
六阿弥陀第四番目与楽寺(北区田端  
一・二五一一)に突き当たる。与楽  
寺も戦災で焼失し、江戸時代の阿弥  
陀仏は現存しない。(つづく)

(北区の歴史を学ぶ会)